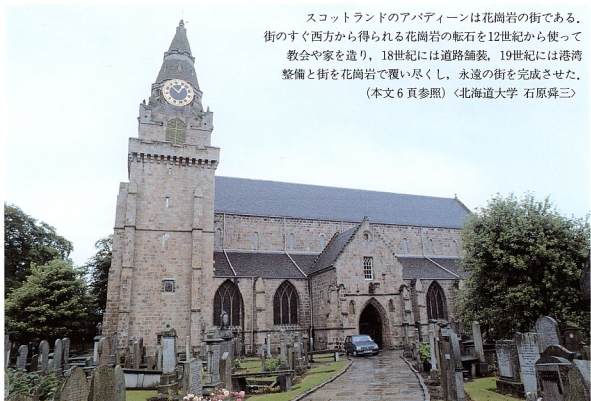


アバディーンにみる石の街造り

スコットランドのアバディーンは花崗岩の街である。街のすぐ西方から得られる花崗岩の転石を12世紀から使って教会や家を造り、18世紀には道路舗装、19世紀には港湾整備と街を花崗岩で覆い尽くし、永遠の街を完成させた。(本文6頁参照)〈北海道大学 石原舜三〉



2. (上) 教会の壁に利用された弱風化花崗岩、手のみ加工の当時としては柔らかい石を選んだらしく、黒雲母花崗岩、両雲母花崗岩が多く見られた (一個のブロックの上下は約30 cm)。

1. 1280年建設のSt. Machar教会。主要な塔などは風化花崗岩を加工して用い、壁には風化した玉石を見事にはめ込んでいる。



3. (右) 花崗岩建築物のシンボル、アバディーン大学のメリシャル カレッジ。1905年に改築されたゴシック建築。



4. (左) ベルモント通り小学校。とても小学校には見えない、1920年に当地域最大のルビスロー採石場の両雲母花崗岩を用いて造られた。5. (右) 同小学校の校壁のクローズアップ。



6. (左) 造られた時代が異なる一般の住居。中央は手仕上げで最も古く、左端は機械切断で新しく、右端の教会は両者混合であり、何回かの改築が推測される。7. (右) メリシャル カレッジ対面の農業協同組合のビル。



8. 現存するケムネイ採石場の一部。割れ目沿いに赤色カリ長石化が著しい。中心に玄武岩脈が貫入している。9. (右上) 現在の主力製品である各種のFyffestoneとそれを用いて造られた鉱山事務所の外壁。10. (右下) Fyffestoneのクローズアップ。花崗岩を粉碎、振り分けし、色付けしたセメントと混ぜ、固化させる。写真はその破断面。

